

## 平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	尊厳概念のグローバルスタンダードの構築に向けた理論的・概念史的・比較文化論的研究
研究代表者	加藤 泰史 (一橋大学・大学院社会学研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、尊厳という人類にとって極めて重要な概念をめぐる最近の欧米の動向を踏まえつつ、非欧米圏における尊厳概念史・影響作用史を考慮し、「人間の尊厳」のみならず、アジアにみられる「生命の尊厳」なども視野に入れ、より普遍的な尊厳概念の構築を目指しており、独自性が高く、かつ意欲的なものである。</p> <p>高齢者の尊厳や尊厳死、再生医療に代表される最先端の生命科学、AI・ロボットなどの科学技術といった様々な問題によって、尊厳概念が常に問い直される現代において、本研究に対する社会的要請も高い。また、本研究の計画が、価値論に関する応募者の先駆的な研究活動に裏付けられたものとなっていることから、大きな研究成果が期待できる。</p>